
第3章 計画の策定体制

1. 伊勢市地域福祉計画策定推進委員会、策定等検討委員会

計画の策定にあたっては、平成 25 年 6 月に「伊勢市地域福祉計画策定推進委員会」を設置し、計画内容の審議・検討を進めました。

一方、議論に際しては、庁内の福祉をはじめ、関係分野の所属が横断的な視野で議論できるよう、「伊勢市地域福祉計画策定等検討委員会」を設置し、策定推進委員会で議論する内容などを検討しました。

また、庁内の連携を図り、各分野が策定するさまざまな行政計画との整合を図っていくことが重要であることから、策定等検討委員会委員も策定推進委員会に出席しました。

2. 作業の進め方

計画策定に当たっては、住民アンケートや地域懇談会を実施し、住民生活における課題の解決のための方策について、できる限り住民の意見を反映できるよう検討しました。

これらの作業を進めるにあたっては、「国等による障害者就労支援施設等からの物品等の調達推進等に関する法律（障害者優先調達推進法）」（平成 25 年 4 月施行）、「伊勢市における障害者就労支援施設等からの物品等の調達方針」（平成 25 年 8 月）に基づき、以下の作業を市内の障害者就労支援施設で実施しました。

- ・住民アンケート実施の際の印刷、封入、宛名貼り作業
- ・住民アンケート結果のデータ入力作業及びイメージ読み取り作業

また、「伊勢市と皇學館大学との連携に関する協定書（平成 20 年 7 月 11 日）」に基づき、以下の作業を皇學館大学と連携し実施しました。

具体的な作業では、地域懇談会の運営に関し、同大学現代日本社会学部教授と学生がその支援にあたりました。

- ・アンケート結果分析業務
- ・地域懇談会開催支援業務
- ・計画作成支援業務

3. アンケート調査の実施

(1) アンケート調査の概要

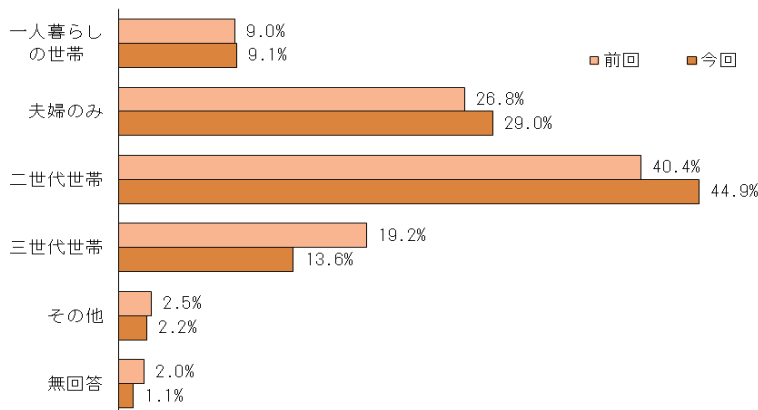
本調査は、地域との関わりや地域活動への参加状況などの実態を把握するとともに、意見、提言を広く聞き、計画に反映することを目的に実施しました。

設問項目について、策定推進委員会、策定等検討委員会で、第1期の計画策定時に実施したアンケートが非常に設問数が多かったことなどの意見をもとに見直しました。

○調査の種類	: 一般市民対象アンケート調査
○調査地域	: 市内全域
○調査対象者	: 平成25年10月31日現在、伊勢市在住の20歳代以上の方 の中から無作為に抽出 (抽出の区分) (・住所(学区根拠の町名による中学校区) ・性別 ・年齢(20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、 60歳代、70歳代、80歳代))
○対象数	: 4,000人
○調査期間	: ①平成25年11月15日～平成25年11月30日
○調査方法	: 調査票による本人記入方式 郵送配布・郵送回収による郵送調査方法
○回収結果	: 回収数 1,838 ・ 回収率 46.0% (参考) 第1期策定の際の実施状況 (・対象者 : 4,000人 ・回収結果 : 1,497人・37.4%)

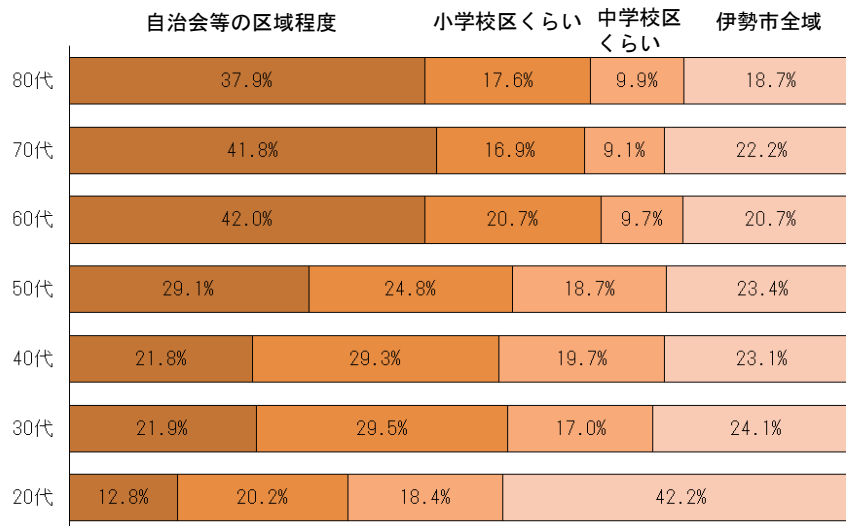
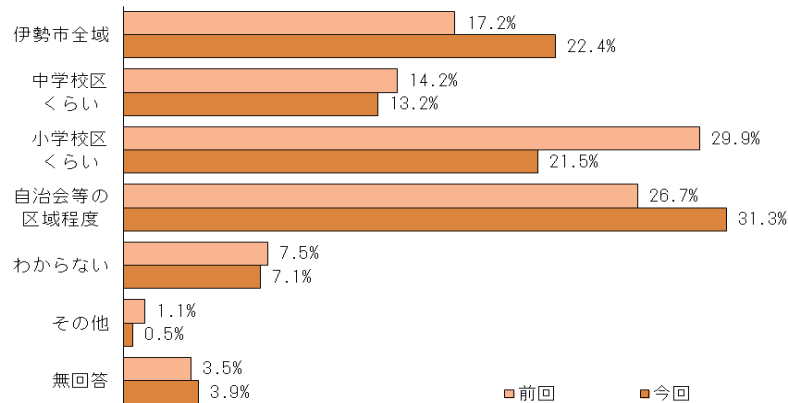
◎アンケート調査の結果の概要

問；あなたの世帯の家族構成はどのようになっていますか。



○夫婦のみ世帯、二世帯世帯を合わせると73.94%（前回67.2%）となり、核家族化が進んでいます。

問；日常生活の上で「地域」ということを意識した場合、あなたの考える「地域」とは、次のどの範囲ですか。



○多くの回答者が、より身近な顔の見える関係が形成される自治会程度の大きさを「地域」と捉えていると考えられます。

問；暮らしの中で相談や助けが必要なとき、あなたは誰(どこ)に相談しますか。(複数回答)

・家族や親戚など身内の人	1547	・社会福祉協議会	160
・知人・友人	718	・民生委員児童委員	80
・市役所などの行政機関	499	・相談する人がいない	86
・近所の親しい人	309	・その他	30
・職場の親しい人	231		

問；あなたは、福祉に関することで困ったとき、気軽に相談できるようにするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答)

・市の相談窓口の充実	1087
・福祉施設、事業所、医療機関・薬局等に 相談窓口をつくる	533

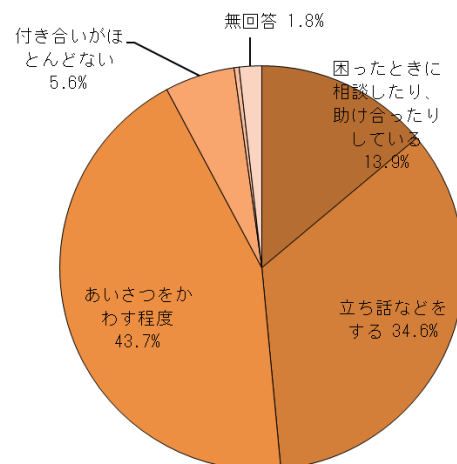
・社会福祉協議会の「総合相談窓口」の充実	515
・自治会やまちづくり協議会などに身近な相談窓口をつくる	395
・地域包括支援センターなどの相談機関の充実	372
・民生委員の相談体制の充実	274
・特にない、分からない	260
・その他	39

問； 以下の団体や機関を知っていますか。

	よく知っている	名前だけ知っている	まったく知らない	無回答
民生委員児童委員	28.0%	46.5%	20.7%	4.8%
社会福祉協議会	26.4%	53.3%	14.8%	5.5%
地域包括支援センター	11.1%	32.5%	47.5%	8.9%
在宅介護支援センター	16.2%	48.6%	27.5%	7.6%
保健センター	29.2%	48.0%	15.4%	7.4%
子育て支援センター	15.7%	46.8%	27.3%	10.2%
爰センター「プレス」	2.7%	13.5%	73.3%	10.4%
総合相談支援センター「フクシア」	3.0%	14.6%	73.0%	9.3%
市民活動センター	6.8%	33.3%	50.7%	9.2%
ボランティアセンター	6.4%	40.0%	45.0%	8.5%

○支援センター「プレス」、障害者総合相談支援センター「フクシア」など、障害者関係の機関については、「まったく知らない」人が大半を占めています。また、市民活動センターやボランティアセンターなど、住民の自発的な活動を支援するための機関についても「まったく知らない」人が多くみられます。

問； あなたは、ふだん、ご近所とどの程度の付き合いをしていますか。



問；現在あなたがお住まいの地域について、どのように思いますか。

	思う	まあまあそう思う	あまり思わない	思わない	どちらとも いえない	無回答
みんなが地域の中で助け合って生活している	8.3%	39.7%	25.4%	12.1%	7.6%	7.0%
子どもがのびのびと成長できる環境がある	9.6%	40.3%	23.4%	10.0%	7.6%	9.0%
高齢者との交流が多い	7.4%	24.3%	30.3%	22.7%	8.2%	7.1%
高齢者が生きがいをもって生活している	5.1%	24.8%	29.5%	16.7%	16.3%	7.6%
障がいのある人との交流が多い	1.1% 5.6%	26.2%	45.4%	11.7%	10.0%	
近くに病院などの医療機関があり安心である		27.3%	37.5%	14.0%	12.2%	3.2% 5.8%
公園やグラウンドなど子どもの遊び場が充実している	9.0%	28.9%	26.9%	22.0%	5.1%	8.2%
高齢者が憩える施設や広場などが多い	2.4% 13.1%	35.1%	32.1%	9.6%	7.6%	
何かあった時に、子どもが駆け込める場所がある	4.6%	19.7%	31.9%	24.5%	9.9%	9.4%
住民同士の温かいふれあいがある	8.1%	35.5%	27.0%	15.3%	7.2%	6.9%
世代が違う人どうしの交流がある	4.4%	17.7%	34.4%	25.7%	9.4%	8.4%
困ったときにもすぐに相談できるところがある	6.4%	12.0%	29.9%	33.5%	10.0%	8.3%
困ったことがあっても誰かが支えてくれる	7.1%	17.4%	28.7%	28.1%	10.8%	7.9%
災害などに対して安全である	4.8%	20.6%	25.1%	31.3%	10.6%	7.5%

問；あなたは地域でどんな活動に参加していますか。（複数回答）

・地域の伝統行事や祭り	409
・自治会、まちづくり協議会など	291
・子ども会、老人会、婦人会	247
・PTA活動	126
・ボランティア活動	122
・消防団や地域の自主防災隊	68
・子どもの見守り、子育て支援	41
・高齢者、障がいのある人の生活支援	36
・民生委員児童委員の活動	12
・特にない	970
・その他	39

問；あなたのお住まいの地域がもっと住みやすくなるために、今後、どのような活動が必要だと思いますか。（複数回答）

・防犯活動など地域の安全を守る活動	657
・幅広い世代が交流する活動	618
・避難訓練や災害発生時の支援	577
・高齢者の日常生活を支援する活動	517
・地域を元気にする活動	381
・地域の美化・環境を整備する活動	380
・子育てを支援する活動	250
・ボランティアの養成や支援	133
・スポーツの指導などこどもの健全育成	129
・障がいのある人の日常生活、社会参画を支援する活動	114
・特にない	223
・その他	32

4. 地域懇談会の開催

住民の声を聞き、地域性をもった取り組みを展開していけるよう、地域懇談会を開催し、課題の把握を行いました。

実施にあたっては、第1期策定の際、実施した地域懇談会での各会場の参加状況などを踏まえ、参加に対する呼びかけ方法を見直し、市が開催日時や会場、開催規模を一方向的に決めるのではなく、実施先の地域と調整し、できる限り多くの参加が得られるよう、総連合自治会常任委員会や設立済みの地区みらい会議の役員の皆さんに協力を呼びかけました。

呼びかけに応じていただいた団体には開催の目的などを説明し、開催日時や会場等を調整しながら実施しました。その結果、さまざまな地域の活動の担い手（自治会、老人会、子ども会、民生委員児童委員など）の方が積極的に参加していただき、福祉に関する情報提供、ワークショップ形式や懇談形式による住民との意見交換を実施しました。

（開催状況）

実施日	会場	実施先	参加
平成25年11月13日(水) 19:00～20:30	浜郷地区コミュニティ センター会議室	浜郷地区まちづくり 協議会	20名
11月25日(水) 19:00～20:30	中島幼稚園 遊戯室	中島地区まちづくり 協議会	31名
12月10日(火) 19:00～20:30	船江会館 集会室	船江連合会	21名
12月12日(木) 19:00～20:30	四郷地区コミュニティ センター会議室	四郷地区まちづくり 協議会	18名
12月18日(水) 19:00～20:30	上地町公民館	城田地区連絡協議 会	14名

12月19日(木) 19:00~20:30	小俣老人福祉会館 集会室	小俣地区まちづくり 協議会	26名
平成26年 1月17日(金) 19:00~20:30	神社地区コミュニティ センター会議室	神社地区まちづくり 協議会	16名
1月29日(水) 19:00~20:30	二見町今一色公民館	高城まちづくりの会	49名
2月24日(月) 19:00~20:30	一之木ふれあいセン ター	厚生まちづくりの会	18名
			9団体 213名

(地域懇談会で出された主な意見)

高齢者の生活
<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし・高齢者夫婦だけで暮らしている世帯が増えている。老老介護 ・家族の理解のなさ、疎遠 ・見守る人がいない、困ったときどう相談すればいいのかわからない ・地域の横のつながりが希薄 ・独居老人の家はどこなのか分からない ・一人暮らし高齢者は、買い物に行きにくい、病院への通院が困難 ・ゴミ出し(遠い人で500~600mも離れている)が困難 ・孤立する人が増加している、閉じこもりがち、ひとりぼっちと思っている ・高齢者の楽しみが少ない。以前まであった老人会がなくなってしまった ・民生委員、市役所、社協の連携、確認が不十分である
障がいのある人の生活
<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者をもつ家族への負担が大きい ・障老介護の対策 ・自宅での介護は限界 ・障がい者支援センターには職員が4人しか居らず、1人当たり200件のケースを抱える ・作業所や民間では受け皿が満杯、地域の中で作業所に行けない
子ども
<ul style="list-style-type: none"> ・子供が近くに住んでいないという不安 ・将来、子供もいない、親戚も少ないという状況で、自分たちが年をとった時に誰がどう支援していくのか ・不審者が登下校中の児童に声をかけることがある ・小学生の登下校の見守り支援をしてくれる人材がいない、高齢化している。 ・子ども会がなくなってきている ・小学校が統合され、地域に小学校がなくなる。今まで培ってきた特色・雰囲気・文化が子どもたちに伝えられなくなる。歴史が途絶えてしまうかもしれない
民生委員・見守り
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が増加したため、民生委員だけでは見守りができない ・民生委員の限界、支える人の限界、民生委員になりたがらない ・民生委員と仕事の両立は難しく民生委員をする人は高齢者ばかりになる

<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の仕事の範囲が広く、仕事量が多く負担がかかっている ・民生委員の数が少ない。体調不良のとき代わりがない ・自治会役員が1年1年で交代していて、十分な連携ができない ・地域によって活動に温度差がある ・ボランティアが少ない（特に若者） ・それぞれの団体に活動をしているが、団体間の繋がりが弱い
情報・連携 <ul style="list-style-type: none"> ・若者世代の福祉の関心が低く、福祉に関する情報の共有化が不十分である ・区長・民生委員の連携が不十分。情報共有ができていない ・地域の問題意識が薄い ・要援護者のプライバシーとの兼ね合いが難しい ・要援護者としてリストアップされていない者に対しての支援をどうするか
世代間交流 <ul style="list-style-type: none"> ・地域で会議やイベントがあった時、いつも決まったメンバー ・若い人が少ない、若い世代は地域に興味のない人が多い ・近所付き合いをしない、自治会に入らない。いざという時の近所の付き合いはあまりない ・子どもたちが公園などで悪いことをしていても注意しない ・交流活動が少ない、世代間交流の場がほしい ・認知症の親と子の交流がない、老人会と小学生との交流がない
空き家対策 <ul style="list-style-type: none"> ・人口流出でこれからますます空き家が増える。物寂しい雰囲気 ・空き家が増えると不安、防犯の見回りが大変 ・空き家が老朽化し、ゴミが不法投棄されている。ポイ捨てタバコから空き家へ引火してしまう可能性がある
災害に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者などへの情報伝達の方法が不十分 ・要援護者の範囲が広く、十分に支援ができない ・個人情報との関係で災害時の要支援者が誰か把握できない ・要援護者の緊急の避難の時に頼れる人がいない、緊急の連絡先を知らない ・近隣に支援が必要な人がいるが、どんな支援が必要か把握できていない ・防災・減災・防犯への取り組みを各地域がばらばらに行っている ・隣近所が要援護者を助けろというが自分で精一杯なので無理 ・聴覚障がいのある人は、目で見て分からない。避難所でのアナウンスが聞こえない。この方たちの支援をどのようにしていくか
自治会など <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の私たちはいつまで自治会役員を続けられるか不安である。 ・自治会活動が難しくなっている（後継者問題） ・自治会が高齢化している。若者、PTAは自治会の高齢化についてどのように考えているのか ・どぶ掃除をやらなくなった（若者が少なく、高齢者だけでは肉体的に限界があるため、したいけれども今は行っていない） ・集まりに出席する人はいつも同じ人